

災害時緊急連絡先

●ペットの取扱いについて

環境生活課 市民生活係 ☎0880-35-4147

西土佐保健分室 保健係 ☎0880-52-1132

●避難所の運営について

防災まちづくり課 防災係 ☎0880-35-2044

地域企画課 地域振興係 ☎0880-52-1111

●かかりつけ動物病院

()
☎ () -

●近隣の緊急避難場所・避難所

【避難場所】

【避難所】

●その他緊急時連絡先(ペットの預け先等)

() ☎ () -

ペット防災手帳

ペットの特徴が分かる写真



(例)

名前		生年 月日	
ペット動物	犬 ・ ねこ ・ その他()		
犬種・ねこ種 その他動物種		毛色	
性別	オス ・ メス 【 不妊 / 去勢手術 : 済 ・ 未 】		
登録番号 (犬の場合)		大きさ (体重)	大 ・ 中 ・ 小 (kg)
マイクロチップ	有 ・ 無		
その他特徴			

飼い主の情報

家族と一緒に写っているペットの写真

(例)



住所 〒 -

氏名

電話番号 ()

携帯番号 - -

 MEMO 

飼い主の皆さんへ

災害は突然起こります。この手帳は、いざというとき、あなたの家庭とペットがともに安全に避難でき、一緒に暮らせるための手引きとして作りました。家族で話し合い、必要事項を記入後、非常持ち出し袋等に入れていつでも持ち出せるようにしてご活用ください。



日頃からの心構えと備え

- 狂犬病予防注射と各種ワクチン接種
- ノミ・ダニ等寄生虫駆除、フィラリア予防
（多数のペットや人が集まる避難所は、様々な病気がうつるおそれがあります）
- 不妊去勢手術
（他のペットとのトラブルを防ぐため）
- 飼育場所に倒れやすいものがないか点検
- 首輪・くさりの点検
（首輪と首の間に指が2本入るくらいが適正サイズです）

災害時にあると便利なもの 使い方紹介

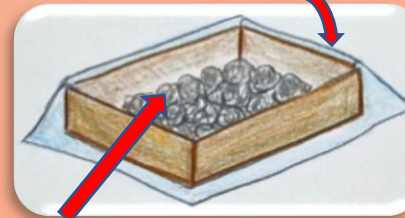


ガムテープは補強や補修の他、文字を書けば名札や伝言メモに使えます。避難時などにペットをキャリーバッグで運ぶ場合は、上からガムテープで固定すると安心です。

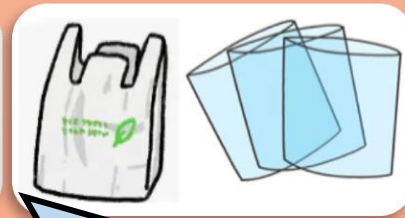
新聞紙は食器、防寒、簡易トイレなどに活用できます。また食器は、軽くて割れない素材、折り畳み式が便利です。ラップを敷くなど、お皿を洗わなくて済む工夫もしてみましょう。



段ボールにビニール袋



ちぎった新聞紙、砂などを混ぜる



猫は猫砂の変化に敏感なため、普段の猫砂を一部持参すると安心です。避難所では、新聞紙・段ボールなどで作った簡易トイレに、持参の猫砂を加えて代用する方法もあります。また、小さめのビニール袋はフードの保存やトイレの片づけなどに、大きいビニール袋は簡易トイレと色々なものに活用できます。

持ち出し品リスト

最優先物品

- ペット防災手帳
- 最低5日分のフード、水
- 食器(ごはん・水などが入るもの)
- 必要な薬、療法食
- 洗濯ネット(猫の逃走防止)
- キャリーバッグ・ケージ
(ケガ・逃亡防止のため、移動時や避難時に使用)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- トイレ用品(簡易トイレ、ペットシート、猫トイレ砂、ビニール袋、新聞紙等)



あると便利なもの

- 手入れ用品(ブラシ、ウェットティッシュ等)
- タオル(防寒、清掃、ケージを覆う)
- 愛用品(おもちゃ、クッション等)
- 寒さ対策、暑さ対策グッズ
(ひんやりシート等)
- ガムテープ
(ケージの補修、動物情報の掲示等)
- カラビナ(例:リードの輪っかの部分に付けると、犬をつなぐこともできます。)



災害が発生したら

- まずは、自分の身の安全を確保しましょう。
- 飛び出し・隙間への逃げ込み・硬直といった、普段では見られない行動をする場合があります。飼い主が落ち着いてペットの安全を確認してください。
- 犬はリードを付け首輪のゆるみを確認し、ねこは洗濯ネットに入れ、ケージに入れてください。
- ペットも興奮している場合があります。かまれる等思わぬケガをしないように気をつけてください。
- 避難するときは見知らぬ動物には近づかず、不用意に手を出さないでください。



基本的なしつけで 家族の一員から社会の一員へ

避難所では、大勢の人や見知らぬ動物と一緒に集団生活になります。ペットは基本的に避難所内に入ることはできません。動物が嫌いな人や、アレルギーを持つ人もいます。他の人に迷惑にならないように普段から基本的なしつけをしておきましょう。これは周りの人のためであると同時に、ペット自身のストレスを減らすことにつながります。

- 「おいで」「おすわり」「まで」
(どんなときでも呼べば必ず来るようにしておけば、ペットと離れ離れになる可能性を低くします)



- 人や他の動物を怖がったり、攻撃的にさせない
- 不必要に鳴かせない
- 決められた場所での排泄
- ケージに慣れさせる



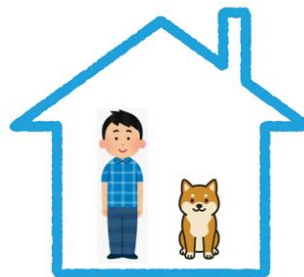
- (中でエサを与える、いつも使っている毛布を敷くなど、ケージに良い印象を持たせて少しずつ慣らしていき、初めての場所でも落ち着ける居場所を作ってください)



避難生活の形は様々

ペットにも人にもストレスの少ない方法を選択できるよう、様々な選択肢を準備しておきましょう。

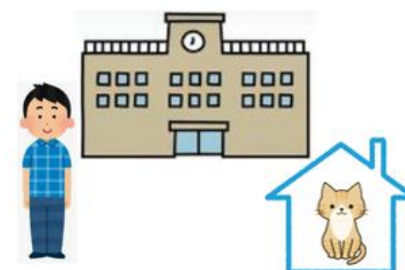
在宅避難



自宅が安全なら在宅避難をしましょう。ペットにとっても自宅で過ごすのが一番ストレスフリーです。知人宅、親戚宅と一緒に過ごすのも○。

飼い主は避難所、ペットは家

建物自体が安全であれば、ペットは自宅に置いて、避難所から毎日お世話に通う方法もあります。



飼い主もペットも避難所



ペット可の避難所であれば、施設毎のルールに従い、飼い主がお世話や環境管理に責任を持つ前提で、ペットと避難所で過ごすことができます。

※みんなが不安な気持ちで過ごす避難所では、いつも以上に周りに配慮した飼い主のマナーが問われます。